

森神信仰としての里神

福原敏男

はじめに

一 隅田の里神

二 紀州の里神

おわりに

論文要旨

日本民俗学では、森・社を神霊の祭場とする祭祀形態を「森神信仰」と呼び、民間信仰研究の中心的課題の一つとしてきた。森神は社殿成立以前の祭祀形態や社殿常在以前の神観念が残存したもの、つまり神社の原初の姿と把握されてきた。また、柳田国男学説の影響により、森神を祖霊の祭場と解釈してきた。

本特定研究の対象である和歌山県の紀ノ川流域や、日高川流域には森林を祭場とする里神と称する一群の小祠があるが、従来、里神は森神信仰研究の対象とはなっていないかった。

本稿では、文献・伝承資料を中心に里神について森神信仰の視点から検討した。